

2013.3.22

平山賀一

公明党京都市議員団は議第 19 号から議第 22 号までの水道事業、公共下水道事業、自動車運送事業及び高速鉄道事業の 25 年度特別会計予算案、及び議第 61 号から議第 63 号までの、上下水道料金の改定を行うための条例の改正案について賛成する態度を表明しておりますので、会派を代表して討論を行います。

まず、上下水道事業に関し申し上げます。

上下水道料金の改定については、本定例会における審議を経て、今後 5 年間の上下水道事業の収支を均衡させるためには、現在行われている山ノ内浄水場の廃止、一層の職員削減、更に今後営業所の統廃合を進めるなど徹底した合理化努力によってカバーした上でも、水道料金で 2.7%の値上げが必要となるが、その分は下水道使用料を 3.0%値下げし吸収することで、水需要の減少に伴う収入減少分を水道料金に上乘せはしないこと、また、洛西地域の水道管破損事故を契機に、老朽化した水道管の更新事業のスピードアップに必要な財源を確保するために、平均 3.7%のご負担を市民にお願いするものであること、を明確に確認しました。

25 年度の上下水道局予算案はこの基本方針に則って立案されており、賛成するものです。

平成 23 年 11 月より約一年にわたり学識経験者や市民モニター代表などのメンバーで構成された「京都市上下水道料金制度審議委員会」において上下水道料金制度の在り方が検討され、昨年 11 月に同審議会から「京都市上下水道料金制度の在り方等についての意見書」が提出されました。

この意見書を参考に、先に述べた老朽管更新のための資産維持費の導入と同時に、大口経の水道管を引きながらも地下水の利用により少量しか水道を使用しない者へ適正な負担を求め、80%以上の方が利用している口座振替による支払について 40 円の口座割引を行うことなど、公平・公正で且つ持続可能な上下水道料金の体系へと改正が図られたことは評価します。10 月の料金改定までの間に、料金改定の目的・内容について市民の皆様へしっかりと周知し、ご理解を深めていただくことが必要です。

特に、市民の皆様にご日常安心してご利用いただいている京都の水道は、明治時代に京都の市民が人的・経済的に団結をし、犠牲を払いながら完成させた琵琶湖疏水建設によって築かれた市民の重要な財産であります。

この京都の先人が遺した財産である水道を、現在の私たちが次の世代へ継承していくために水道管老朽化更新の責務を果たす意義と必要性を、市長自身の言葉で訴え市民の皆様のご理解を得る努力を進めていくよう強く求めます。

加えて、老朽管更新に対する国の支援要望を、従来以上に知恵を絞り強力に進めていただくようお願いいたします。

また、市民にご負担をいただく水道管老朽化事業及び上下水道事業中期経営プランの進捗

(公営企業関係 予算賛成討論)

については、第三者委員会等による点検・評価を行い市民へ報告を行なっていくとの答弁がありました。丁寧な報告説明を実行していただきたいと思います。

その他、大口径接続者の地下水利用に対する更なる対応、営業所統廃合における市民サービスの維持向上、上下水道施設での地球温暖化防止・エネルギー再生への取組、地域水道のスムーズな統合へ向けての対応など、しっかりと取組んでいただくことを要望致します。

次に、交通事業について申し上げます。

25年度予算案は平成24年11月に策定された「市バス・地下鉄中期経営方針」に則り、安全対策、お客様サービスの向上、増収増客の取組、コスト削減策を着実に推進すると同時に、資金不足比率では経営健全化計画の25年度目標を上回る予算編成となっており賛成いたします。

特に市バスでは、経営健全化計画より2年前倒しで経営健全化団体から脱却する予算となっていること、地下鉄では経営健全化計画で予定されていた運賃値上げを、25年度・26年度と回避する決断をされたことは高く評価します。

その上で、二点、意見を申し上げます。

一点目は、経営健全化計画を大きく上回る結果を出している現状を踏まえ、25年度には、改めて交通事業の財政状況見直しを行い、資金見直しを含む経営健全化計画のグレードアップをお願いしたいと思います。

これは経営健全化計画の抜本的見直しを求めているのではなく、更なる市民サービスと安全性の向上を図り、市民の皆様に一層市バス・地下鉄をご利用頂くためにこそ、これまで成果を挙げてきた乗客増・コスト削減の取組を踏まえながら交通局として何の事業に重点的に投資していくのかという、次の方針の具体化・明確化の作業が必要であるからです。

地下鉄5万人乗客増は高いハードルです。経営健全化計画が順調に推移しているいまこそ、足元を見直し、交通局が一致団結して事業を遂行していくよう求めます。

二点目として、25年度に行う予定である市バスダイヤの見直しについては、通勤通学者、高齢者、子ども、女性など利用者の視点を取り入れて、公共交通として市民の利便性を守り向上させていくように議会に対する説明を充分に行いながら進めていくべきであると申し上げておきます。

その他、ICカード利用拡大への対応、広告事業の充実、バス停への上屋・簡易ベンチ設置の導入拡大など予算執行にあたって積極的な取り組みを期待します。

老朽水道管更新や地下鉄経営健全化などの本市上下水道・交通事業が抱える課題は、決して公営企業単独の課題ではありません。

市長が25年度予算案の説明で言及されたとおり、市民のいのちを守り生活を豊かにする両事業の取組を、連結の視点で市長を先頭に推進していかれることを期待し、賛成討論と致します。

以上